

義経流離（大野恵造）

一将 烈しく 義経の 功を 猜む
右府 讒を 容れて 骨肉を 遂う
故旧 忘れじ 難く 芳山に 入れば
寶を 迎えて 遇するは 唯 氷雪のみ
天下 巳に 身を 置く 処 無し
乃ち 郎党を 具して 陸奥に 走る

一将烈猜義経功 右府容識逐骨肉
故旧難忘入芳山 迎賓遇唯氷雪耳
天下已無置身処 乃具郎党走陸奥

解説 兄弟である兄、頼朝から追われ陸奥に逃避する義経を描いた詩。

語釈 ※一将||義経を妬む源氏の武将達。※義経功||頼朝の許可を得ることなく官位を受けたことや、平氏との戦いにおける勝利。※猜||嫉妬羨ましがらる。※右府||頼朝。※骨肉||親子、兄弟など血縁関係にある者。肉親。※故旧||古くからの知りあい。※芳山||東海・北陸・近畿・奈良の中央部にある山。※寶||来寶。この場合は義経のこと。※郎党||従者。※陸奥||陸前・陸中・陸奥・磐城・岩代の奥州五国の古称。出羽を加えた奥羽、今の東北地方を漠然とさしている。

通釈 源氏の武将達に猜まれ、讒言を聞き入れた頼朝は肉親である義経を追放する。義経は兄との戦いを好まず、逃避の道を選択し、子供の頃世話になった藤原秀衡の元へと郎党を従えて、芳山から陸奥への逃避行に走った。